

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

(別添様式2)

公表日:令和7年 2月 2日

事業所名:放課後等デイサービスつぼみ

サービス種類:放課後等デイサービス

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	利用者数の多い日はスペース不足を感じる。屋外スペースや近所の公園を利用しながら、可能な範囲で室内にいる人数を調整している。	スペース不足を感じられている意見もある。高学年の子が多い時や人数が多い時はスペースが狭く感じる。	必要に応じて2階の居室を使用する。屋外スペースや公園等の利用を継続していく。
	2 職員の適切な配置	毎日6~7人の職員で見守りを行っている。	概ね満足していただいているが、「分からない」という意見もあり、顔と名前が一致しない職員がいるのでお便り等で教えてほしいという意見もあった。	職員の顔写真付きの名簿等を配布する。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	玄関にスロープを付け、手すりの設置をしている。また、色違いのマットを利用して活動エリアをより分かりやすく区分けした。	概ね満足していただいている。「目で見て分かるような表示がしてあると子どもから聞いている」という声もある。	施設内の構造化を継続していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日の掃除・消毒を励行している。	満足していただいている。	清掃・消毒の励行と衛生管理を継続していく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	日々申し送りとミーティングを行っている。		継続して取り組んでいく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施していない。		今後も実施予定なし。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	法人内研修をオンラインで行った。全体ミーティングを2~3か月に1回行っている。		継続して取り組んでいく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	アセスメントシートを用いてアセスメントを行い、相談支援事業所からも情報収集して計画書を作成している。		より適切なアセスメントを行えるよう、研修などへの参加を行い、資質向上を行う。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別プログラムも取り入れると共に、集団での社会性の構築を考え計画を作成している。	満足していただいている。「面談等で話した内容をきちんと理解し、計画に取り入れてくれている」という意見があった。	必要に応じて作成していく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	具体的に記載している。		継続して取り組んでいく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	計画に沿って支援を行っている。より綿密なサポートが必要な児童に対しては、毎日の様子の情報共有をしながら、落ち着いて過ごせるように支援方法の検討を行っている。	満足していただけている。	継続して取り組んでいく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	児童発達管理責任者が作成し、職員と相談して決定する。		継続して取り組んでいく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	長期休暇時には外出や買い物支援などを取り入れ、日常生活に則した支援をしている。	概ね満足していただけているが、「曜日固定の利用で問題ないが、たまには別の曜日のプログラムも経験できたらいいと思う」というご意見もある。	継続して取り組んでいく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	季節に合わせたイベントや外出等も取り入れている。 月に1回、外部の講師によるダンスプログラムを開催している。		曜日固定ではなく、できる範囲でプログラムのスケジュールを変動させていくことを検討する。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	送迎前に毎日20分程度、ミーティングを行っている。		継続して取り組んでいく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	送迎等の兼ね合いで当日には行わず、翌日のミーティングで行っている。課題点や支援の方向性の相談も適宜行っている。		翌日のミーティングでの振り返りを継続していく。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	毎日、利用者の様子や実施した支援の記録を行っている。毎日のミーティングの中でも職員間で支援方法の検討や情報の共有を行っている。		継続して取り組んでいく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	面談と電話でのモニタリングを実施した。個別支援計画は6か月ごとに更新している。		今後もオンラインでの対応を取り入れながら継続していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	相談支援事業所から担当者会議の参加依頼があれば参加している。		相談支援事業所と密に連携を取っていく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	実績なし。		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	適宜、協力医療機関(岡本医院)へ電話相談するようにしている。		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	学校への送迎時に情報共有をしている。支援の難しい児童に対しては、学校を含めた担当者会議を開催し、情報の共有と支援方法の検討を行っている。		継続して取り組んでいく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	情報提供の依頼があればしている。		保護者の同意を得ながら継続していく。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	法人全体での研修は受講している。		職員が積極的に参加できるよう、調整をしていく。
	7	児童等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	コロナ禍の影響もあり、交流の機会は設けられていない。同法人内の作業所との交流会は開催できた。	交流の機会は無いと認識されている。	コロナ状況に応じて検討していく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	今年度は実施なし。		コロナ状況に応じて検討していく。
	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	事業所を見学していただくと同時にパンフレット等を用いて説明を行っている。	満足していただけている。	継続して取り組んでいく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責任・連携支援	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	課題点・事業所として伸ばしていきたいことを中心に説明している。	満足していただけている。	継続して取り組んでいく。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレントトレーニングの実施は難しい。家庭での対応や支援に関して相談があれば対応している。	実施されていないと認識されている。「子どもに対しての接し方等を助言してもらえると助かる」という意見があった。	ペアトレの情報等、事業所に届いた情報があれば発信する。困ったことや気になることはないか、よりこまめに聞き取りを行っていく。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳やLINEを用いて状況や課題の情報交換を行っている。活動の様子を撮影した動画が好評。	満足していただけている。特に活動の様子を撮影した動画が好評。	継続して取り組んでいく。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	送迎時やLINEを活用しながら、家庭での対応について相談があれば対応している。	概ね満足していただけているが、面談や相談の機会をもう少し増やしてほしいという意見もあった。	モニタリングの際だけでなく、普段から随時面談を受け付けていることを周知する。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	希望する声が少なく、保護者会は実施していなかった。	保護者同士の交流の場が無いと感じられている意見もある。	開催希望の意見が多くなれば検討する。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	できるだけ当日中に電話等で聞き取りを行い、対応している。苦情がなかった場合も、トラブルや体調に関する情報は保護者に伝達している。	苦情を入れたことがなく、どう対応しているか分からないという意見が多い。	苦情に対しては真摯に対応を続ける。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	絵カードや筆談等を用いながら、コミュニケーションの円滑化を図っている。保護者とは連絡帳やLINE等を通じて随時情報発信している。	送迎時に活動中の子どもの様子等を教えてもらえるので助かる。	継続して取り組んでいく。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月の活動スケジュールの配布、LINEでの活動報告を行っている。	満足していただけている。	継続して取り組んでいく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	対応している。	満足していただけている。	継続して取り組んでいく。
	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急時の対応について、送迎中の避難等細かな対応について話し合いを進めている。警報発令時の対応については保護者に書面で説明している。	警報発令時の対応については周知されているが、その他の緊急時はどうするのかあまり周知されていないと感じられている。	職員間でのマニュアルの周知に加え、保護者への周知も行う。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	避難訓練は、火災と地震を想定したものを年2回行っている。消防署見学へ行き、消火訓練にも取り組んだ。 BCP計画を作成し、法人として災害時用の備蓄を行っている。	概ね満足していただけている。 活動内容に避難訓練を取り入れていることを評価していただけている。	年2回の避難訓練報告を徹底する。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	法人内研修で取り組んできた。 ミーティング時に支援の振り返りを行ったり、虐待防止意識についてチェックリストでの振り返りも行っている。		継続して取り組んでいく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	必要な児童については、保護者に説明した上で計画に記載している。		身体拘束の必要のある利用者に関しては保護者に説明と定期的な報告を行う。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食物アレルギーのある児童の利用実績なし。		必要に応じて、協力医療機関や児童のかかりつけ医に相談しながら対応していく。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット・事故報告書は職員と共有・再発防止に取り組んでいる。		継続して取り組んでいく。